



#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・食育人材バンク派遣事業の派遣回数が93回、講師登録が74個人・団体に増加し、県民に広く浸透してきている。派遣の際、食事マナーについての取組も実施しており、食のマナーアップにも一定の効果があった。
②	・栄養教諭や学校栄養職員が、給食時間をはじめ授業等の教育活動全体で児童生徒に食育指導を行った。また「食育の日」に地場産物を活用した食育を行う学校の割合が年々増加している。安全・安心な学校給食のために、更なる地場産物の活用と保護者や家庭への食育の啓発が課題となっている。
③	・高校生のコンテスト最優秀作品が包括協定を締結した企業により商品化されるなど、若年層への地産地消意識の普及拡大が図られた。 ・地産地消の推進、生産者と消費者の交流、地域と学校の連携については、第2期大分県食育推進計画の目標値を達成しており、食を通じた地域づくりの推進が図られている。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
①	大分の食育推進事業	22,853	継続	98
	青・壮年期食育推進モデル事業	12,275	継続	99
③	地産地消運動活性化推進事業	13,757	継続	155

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○平成25年度第1回大分県食育推進会議 (H25.8.30) ・朝食の喫食率を上げるために、佐伯市等で取り組んでいる「弁当の日」を県下全域で取り組んでみてはどうか。「弁当の日」の取組は学校現場だけでなく、保護者自身も変えていくという取組の一つとなる。	○平成25年度第2回大分県食育推進会議 (H26.2.24) ・昨年秋に日本の食文化が世界遺産に登録されたが、食育(季節感や行事、食材を生かす等)の観点からそういったタイムリーな日本の食文化(和食)というものを事業に取り入れていってはどうか。
--	--

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県下で食育活動を実践している食育活動者の掘り起こしをさらに進め、食育人材バンクの講師を増やすことで、食育活動をさらに広めていく。</li> <li>・食育の取組が進まなかった青・壮年期の大学生や働き盛りの世代に対し、「弁当の日」の啓発や、社員食堂をツールとした事業を実施し、ライフステージに応じた切れ目のない食育を推進していく。</li> <li>・グリーンツーリズム活動者に対する食育実践研修会を実施し、日本の食文化(和食等)等を伝承していく食育の活動者を育成する。</li> <li>・健康応援団登録店舗数の拡大のため、特に飲食店が多く、登録店舗の少ない大分市内については、チェーン店等を中心に市保健所や飲食業生活衛生同業組合と協力し勧誘を図る。</li> </ul>